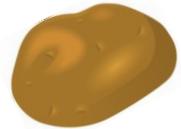


富山市山田地域の農業の変容

富山大学人文学部人文学科
社会文化コース 人文地理学研究室 4年
11110033 萩原明子

1

- I はじめに
 - 1. 問題の所在
 - 2. 研究目的、研究方法
- II 調査対象地域概要
 - 1. 特産物の展開
 - 2. 加工組合
 - 3. そのほかの農業振興の取り組み
- III 農産物加工組合から見た山田地域の農業
 - 1. 特産加工組合
 - 2. 清水そば そば峠
 - 3. やまだの案山子
- IV 考察
 - 1. 発生した問題
 - 2. 付加価値をつける取り組み
 - 3. 今後の山田の農業の可能性
- V おわりに



2

1. 問題の所在

農山村の…

過疎化

堤(1987)は過疎山村の人口移動をライフサイクルに対応するかしないかに分けて分析した。対応しないものび原因として、農林業からの転職が大きな理由に挙げられた。

農村の高齢化

今野(2004)によると農村の高齢化が進行しており、若手の担い手が必要であることが述べられている。

3

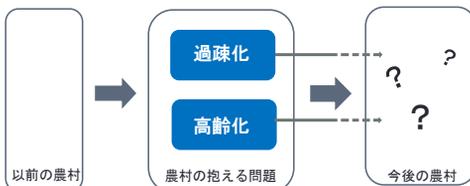
半場(1991)によると…

従来の農山村における地理学的研究の多くは、主として各地域における既存のシステムを究明してきたが、今日はそれに加えて**今後いかに変化するか**という視点から農山村地域をとらえ、その変化のメカニズムを究明していくことによって、農山村における地理学の新しい研究体系を構築することが必要である。



4

2. 研究目的、研究方法



研究目的

地方都市近郊の農村の中でも過疎化、高齢化が著しい富山市山田地域をとりあげ検討する。山田地域の農業の変遷をたどることで、日本の地方都市近郊の農業の変容と存続の可能性について考える。

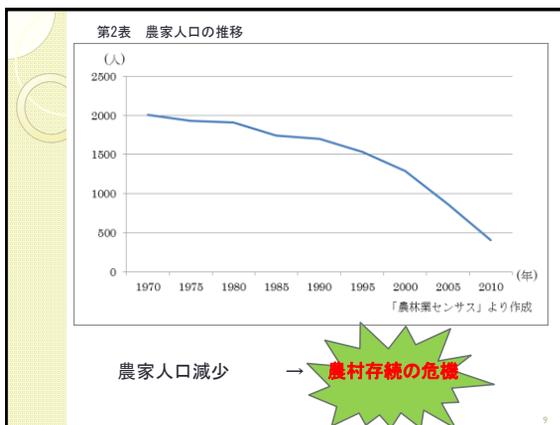
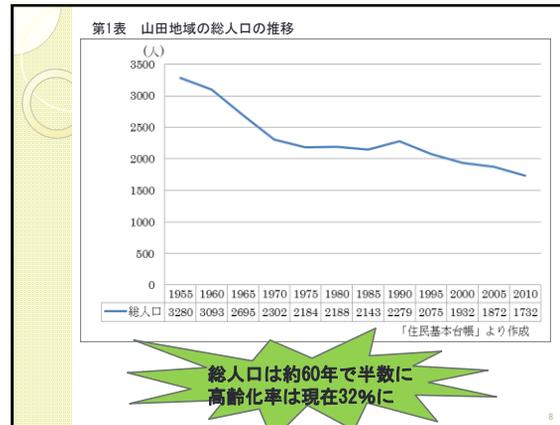
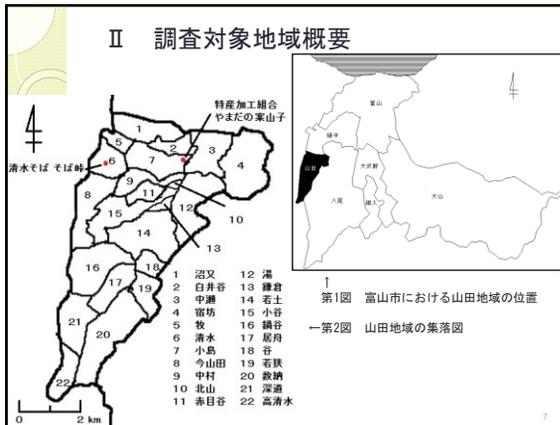
5

研究方法

はじめに公的機関所蔵の各種資料、農林業センサス、国勢調査等の資料を収集し山田地域の農家人口や作付面積の変化を分析する。

次に山田地域の農産物加工を行う3つの組合に山田地域の農業をどう考えているか、今後の取り組みなどについて聞き取り調査を行う。

6



1. 特産物の展開

1980年代 ダイコン、パレイショを中心
1990年代 リンゴ、ケイオウサクラの生産に着手
2010年 鎌倉営農組合がマコモタケの栽培を始める
2014年 富山市の事業の一環でエゴマの栽培が始まる

2. 加工組合

農産物加工をしている組合が3つある

(1) 特産加工組合
設立年 1987年
活動
柿酢を中心としたドリンクや調味料などを製造、販売をしている。最近ではりんご酢やエゴマ油の開発販売も行っている。

(2) 清水そば そば峠
設立年 2004年
活動内容
そばや山田の野菜を使った料理を提供している。店頭では地場産の野菜の直売も行っている。

(3) NPO法人 ふれあい青空市
やまだの案山子
設立年 2006年
活動
富山市山田農林産物処理加工直売施設の中にあり、山田地域で採れる野菜・山菜・キノコ等の直売のほか、地場産品を使った加工、お惣菜の製造販売している。また、手打ちそばが食べられる食堂も運営している。

3. そのほかの農業振興の取り組み 牛だけ高原収穫感謝祭

芋ほりイベントを開催している。

マコモタケの収穫体験

県内の大学のボランティアサークル
にマコモタケの収穫体験をしてもらう。

りんご収穫体験

牧地区の観光農園にて行われる。



Ⅲ 農産物加工組合と山田地域の農業

農産物加工組合へ

①加工組合の取り組み

②山田地域の農業の変容

③山田地域の農業の今後

について調査した。

また、新聞記事などからも活動内容について調査を行った。

14

1. 特産加工組合

①柿酢の製造、販売を行っている。山田地域だけでなく、都市部のアンテナショップ、地場もん屋総本店などに商品を置き、さらに、インターネット販売もおこなっている。

②農業就業者の高齢化が深刻である。同様に柿酢加工に携わる人もまた高齢化している。

③数年は続けられるかもしれないが、その後はどうなるのか予想できない。

15

2. 清水そば そば峠

①地域を活性化させたいという思いで地場産品を使った料理を提供している。

②平地よりも農作業が大変。よって農業から離れていく人が多い。また、農家人口の高齢化が著しい。

③農業は地域にとっても自身にとっても必要なものである。地域内外の人に山田の農産物の魅力を知ってもらいたい。そして若者の農業就業につなげたい。

16

3. やまだの案山子

①直売だけでなく、特産物（加工品）の製造、販売をしている。

②高齢化の影響で販売できる地場産品が減ってきている。

③他地域よりも山田を選んでもらえるような取り組みや地場産品が必要。

17

Ⅳ 考察

1. 発生した問題

農家人口減少・高齢化

→農村存続の危機

2. 付加価値を付ける取り組み

農産物加工

グリーンツーリズム

18

3. 今後の山田の農業の可能性
他地域との差(=付加価値)をどのよう
につけていくか。また、どのようにア
ピールしていくか。
農業就業者

19

V おわりに

今回は主に加工組合に注目して調査
を行ってきたが、農業従事者、住民か
ら見た視点が必要であったと考える。

新たな作物への着手が近年見受けら
れた。今後、それらの作物への収穫量
や作付面積の変化を観察し、山田の農
業の変容を理解することが必要である。

20